



本丸内の旧楼櫓(ろうろ)

- 本段【上段】
- 1 三階櫓
 - 2 干飯(ほしいい)櫓
 - 3 長屋統(つづき)櫓
 - 4 天守閣

- 表書院【中段】
- 5 大納戸(おおなんど)櫓
 - 6 伊部(いんべ)櫓
 - 7 数寄方(すきかた)櫓
 - 8 月見櫓
 - 9 小納戸(こなんど)櫓

- 【下段】
- 10 隅(すみ)櫓
 - 11 油蔵櫓
 - 12 修覆(しゅうふく)櫓
 - 13 太鼓(たいこ)櫓
 - 14 春屋(つきや)櫓
 - 15 穴栗(しろう)櫓
 - 16 旗櫓
 - 17 檜櫓
 - 18 弓櫓
 - 19 花畑隅櫓
 - 20 小作事請(こさくじうけ)旗櫓

- 城門・橋
- A 内(うち)下馬橋(目安橋)
 - B 大手門(内下馬門)
—高麗(こうらい)門
—渡(わたり)櫓門
 - C 鉄(くろがね)門
 - D 不明(あかず)の門
 - E 六十一雁木(がんぎ)上門
 - F 廊下門
 - G 馬場口門
- ※旧楼櫓・城門等の配置は、明和年間(1764～1771)の絵図を参照。

岡山城

川面に映える漆黒の城



(公社) おかやま観光コンベンション協会

●入場料金

区 分	常設展示期間中	展示入替期間中
大 人	320円(260円)	160円
小中学生	130円(110円)	65円

※()内は20名以上の団体料金です

●共通券

区 分	岡 山 城 後 楽 園	岡 山 城 後 楽 園 林原美術館
大 人	580円	980円
小中学生	—	—

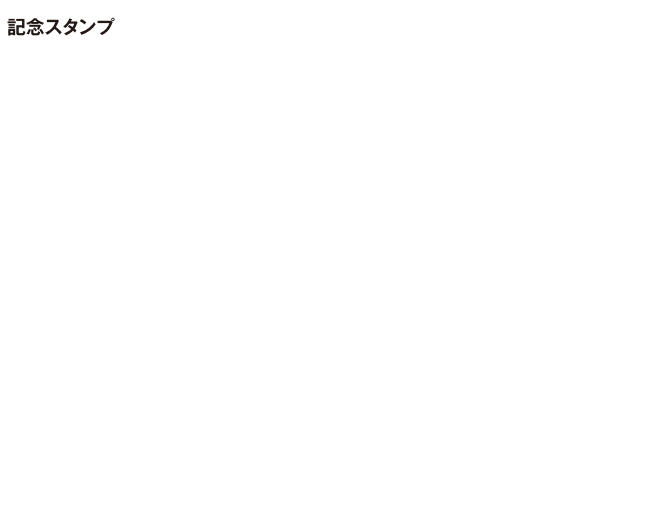
※休館日・特別展開催日・展示入替日は共通券の販売を中止します

●館内体験施設について **詳しくは中面をご覧ください**

体験内容	料 金	体 験 時 間	場 所
備前焼体験	1,250円(粘土500g) 焼き上がった作品を送る場合は、別途送料が必要となります	①10:00～ ②11:00～ ③13:00～ ④14:00～ ⑤15:00～	天守閣1階
着付け体験	無 料 予約はできません	①10:00～ ②11:00～ ③13:00～ ④14:00～ ⑤15:00～ 各回5名様まで体験できます	天守閣2階

- 観覧時間 午前9時～午後5時30分(入場は午後5時まで)
- ※イベント開催時は変更する場合があります
- 休 館 日 12月29日～31日
- 交通アクセス
路面電車:「岡山駅前」から「東山行き」に乗り、「城下」下車、徒歩10分
自 動 車: 岡山ICから東に約20分

岡山城天守閣 〒700-0823 岡山市北区丸の内2-3-1
TEL(086)225-2096 FAX(086)225-2097
<https://okayama-kanko.net/ujo/>



岡山城天守閣で「備前焼」と「着付け」を体験してみませんか。



お城の中で、備前焼の体験ができます。
岡山での思い出に、素敵な作品をお作りください。

**岡山城天守閣内
備前焼工房**

所要時間
約60分



※体験できる作品は一部変更する場合があります。
※予約優先のため、事前にご連絡ください。

【お問い合わせ・ご予約】
岡山城天守閣内備前焼工房 TEL.086-224-3396
<https://okayama-kanko.net/ujo/kobo/>



お殿さま、お姫さまになろう！

着付け体験

無 料
※予約はできません。

岡山城の概要

岡山城の歴史

「安土（あづち）城に建築ありし制に擬して天守閣を設く。その制三重造にて五重…」と、古い記録（『岡山城誌』）にもあるように、この岡山城は、本格的な城づくりのスタートとされる織田信長の築いた安土城にならって作られた日本を代表する城郭建築で、城の研究には避けて通れない貴重な城である。

いつも豊かな清水をたたえて流れる旭川、日本三名園の一つ「後楽園」を背景にしたこの城は、天守閣の基壇（天守台とい）が北に大きく突き出た不等辺五角形という、全国に全く例のない珍しい形をしており、また塩蔵を併設した複合の天守閣である。

かつての岡山城の場所は、今の天守閣のある位置より西に300mほど行った、現在市民会館や放送局の建っている高台（「石山」という）にあった。

天正元年（1573）、宇喜多直家（うきた・なおいえ）が、当時この城主であった金光宗高を滅ぼし、その城を修築した後、沼城（岡山市東区沼から移ってきた）。

今の岡山城を築いたのは、宇喜多直家の実子、秀家（ひでいえ）で、時の天下人、豊臣秀吉の養子となって「秀」の一字をもらった人物である。秀吉が天下を握ると、秀家は父の遺領である備前・美作のほかに備中の一部ももらい、57万4000石の大大名となった。そして年若くして、参議従三位という異例の出世をとげ、「備前宰相」と呼ばれた。

こうなると、今の石山の小さな城では満足できず、秀吉のアドバイスに従い、現在天守閣の立つ場所「岡山」という名の小さな丘の上に、新しく旭川の流れをつけかえて、掘削した土砂を盛り上げ、上中下三段の地形を造成した。そして天正18年（1590）から本格的な城づくりを開始した。途中、秀吉の朝鮮半島への進攻には、総大将として出陣したが、帰つてくるとすぐに工事を継続し、ついに慶長2年（1597）の天守閣の完成で二応城づくりの全工事を完了した。起工以来実に8カ年にも及ぶ大事業であった。

新しく出来上がった本丸（城の中心部分、内堀に囲まれた



範囲）は、現在も殆ど昔のまま残っている部分で、面積が約4万㎡あった。

秀家の築いた天守閣は、石垣からの高さが20.45m、二階建ての建物を大中小の三つに重ねた三層六階の構造である。外壁の下見板には黒漆が塗られていたので、太陽光に照らされるとあたかも鳥（からす）の濡れ羽色によく似ていたため、「鳥城（うじょう）」の別名がある。壁が黒いのは、戦国時代の名残りである。

また天守閣の内部には、かつて城主が生活をしていた「城主の間」の遺構が再現されていて、全国的にも珍しい設備である。他の城でこの実例があるのは、天文6年（1537）の建築といわれる大山城だけである。

かつて岡山城の範囲は、現在路面電車の通っている柳川筋や番町筋（当時の外堀跡、二十日堀といわれる）までで、建物の数としては、櫓が35棟、城門が21棟あり、当時はわが国を代表する名城であった。

しかし明治2年（1869）、岡山城は国の所有となったものの、これら全ての建物を維持していくことができず、明治15年（1882）以後に残されたものは、僅かに天守閣・月見櫓・西の丸西手（にしのまるにして）櫓および石山（いしやま）門の4棟であった。

その後、これらは昭和6年と8年（1933）の二度に分けて国宝に指定されたが、昭和20年（1945）6月29日の早曉、第2次大戦による市街地空襲で、借しくも天守閣・石山門を焼失してしまった。

現在の天守閣は、昭和41年（1966）11月3日、市民の長年にわたる要望で作られた鉄筋コンクリート造りだが、外観は旧状通りに再現された。また同時に、不明（あかず）の門・廊下門・六十一雁木（がんぎ）上門、それに周囲の塀なども、古い絵図面に従い、外観が旧状通りに再現された。

月見櫓

この本丸内で戦火を免れた唯一の建物は、中段Ⅱ表（おもて）書院跡Ⅱの北西隅に建つ月見櫓（国指定重要文化財）である。

1 宇喜多家 剣許崇草・“兒”文字・五七桐		
うき た なおいえ 宇喜多 直家	うき た ひでいえ 宇喜多 秀家	
うき た こばやかわ 小早川 秀秋	いけ だ ただ つく 池田 忠継	
いけ だ ただ かつ 池田 忠雄	いけ だ みつ まさ 池田 光政	
いけ だ つな まさ 池田 綱政	いけ だ つぐ まさ 池田 継政	
いけ だ むね まさ 池田 宗政	いけ だ はる まさ 池田 治政	
いけ だ なり まさ 池田 斉政	いけ だ なり だし 池田 斉敏	
いけ だ よし まさ 池田 慶政	いけ だ もち まさ 池田 茂政	
いけ だ あさ まさ 池田 章政		

岡山開府からの在城期間

天正元年 (1573)	開府 石山の城 9年間
天正10年 (1582)	岡山城 代初 19年間
慶長5年 (1600)	二 代 2年間
慶長7年 (1602)	
慶長8年 (1603)	
元和元年 (1615)	三 代 13年間
寛永9年 (1632)	四 代 17年間
寛文12年 (1672)	五 代 40年間
正徳4年 (1714)	六 代 42年間
宝暦2年 (1752)	七 代 38年間
明和元年 (1764)	八 代 12年間
寛政6年 (1794)	九 代 30年間
天保4年 (1833)	十 代 39年間
天保13年 (1842)	十一代 9年間
文久3年 (1863)	十二代 21年間
明治元年 (1868)	十三代 5年間
明治2年 (1869)	十四代 1年間

これは岡山城第4代城主、池田忠雄（ただかつ）によって、元和・寛永年間（1615～1632）に建てられたものである。この名称のある建物は、全国的にも極めて数が少なく珍しい遺構である。この櫓は、文字通り「月見」という風流を楽しむためにも用いられたようだが、本来の目的は、この中段Ⅱ表書院の北西を防衛するためのもので、櫓自体も武器の貯蔵庫になっており、隠し銃眼・鉄砲を撃つための狭間（や中世的な石落としの装置などが設けられている）。



月見櫓

銃眼石・野面積

またこの付近にある塀の土台石には、全国的にも珍しい、当時の最新式装置の銃眼石（石狭間、狭間石ともいう）を並べている。またそのそばには、穴蔵式の火薬貯蔵庫・古井戸・流し台なども残っていて、昔を偲ぶよすがとなっている。

さて石垣に目をやると、現在広い範囲に残っている石垣の殆どは、昔のままの状態で保存されていることで、全国的にもあまり例がない。特に貴重なのは、天守閣を中心にこれを広く取り巻く石積みだが、丸い形の自然石を用いた野面積（のづらづみ）であることである。これは日本全国に近代的な城づくりが始められた頃（安土桃山時代の初め）の古い形式のもので、貴重な文化遺産である。



銃眼石



野面積

打込ハギ

一方、月見櫓を支えている付近の石垣は、前の野面積とは異なり、石の周囲を平らに加工した割り石を用いた石積みで、打込ハギ（うちこみはぎ）という工法である。「扇の勾配」ともいわれるように、石垣のカーブの美しさ特徴である。

岡山城本丸の下段には、南から西にかけて、城を取り囲むように造られている掘は内掘で、ほぼ昔の原形をとどめている。

またここへ通じる橋（内目安橋、内下馬橋という）の城側の手前には、巨石で築かれて、四角な広場を形成している。「升形（ますがた）」と呼ばれるところで、本丸の正面入口に当たる城門のあった場所である。

これらの石垣を含め、岡山城で使われている石の全ては、花崗岩の宝庫である瀬戸内海の犬島（岡山市）から運ばれたものである。



打込ハギ

立ち並んでいた所で、65室の部屋と庭園があった。

礎石群

「不明門」を通り抜け、石段を上りきった天守閣のある上段は「本段」と呼ばれ、城主自身の生活に必要な建物が立ち並んでいた所で、築山や池のある庭園も作られていた。

この広場の南東の一面には、多くの石を整然と並べた場所がある。これらは、昔の天守閣の礎石を移したもので、かつてはこの状態で重く大きな天守閣を支えていたのである。



礎石群

なお、戦火を免れたもう一つの建物は西の丸西手（にしのまるにして）櫓（国指定重要文化財）で、この城から西に300m行った内山下（うちさんげ）の場所にある。これは、姫路城の城主、池田輝政（いけだ・てるまさ）の子、利隆（としたか）が藩政の代行でやってきた慶長8年（1603）に建てたものである。

岡山城の唄

岡山城

十二村哲 作詞
飯田景広 作曲
芝田錦吾 唄

一 栄華の夢を 現にして
雲井に映ゆる 天守閣
月見櫓よ 石垣よ
鶴が羽ばたく 岡山城
姿かわらぬ

二 歴史の絵巻 浮かぶつ
流れも清き 旭川
松の梢を 吹く風に
昔しのは 武士どもの
声が呼ぶような 岡山城

三 鳥城の名さえ なつかしく
壮麗誇る たたずまい
三十一万 五千石
空を仰げば いらかの波に
金鯱も躍るよ 岡山城